

大会概要

1. 開催日：2021 年 12 月 17 日（金）～18 日（土）

2. 開催形式：Zoom を用いたオンライン形式

日本生物環境工学会九州支部 2021 年大会では、オンラインミーティングツール Zoom を使用して各プログラムを開催致します。Zoom は PC のブラウザやアプリケーション、スマートフォンアプリから参加することが可能です。

スケジュールに沿って行いますので、時間になりましたら各自ご参加ください。当日の参加（Zoom へのアクセス）方法の詳細については別途メールにて通知致します。

3. 大会スケジュール

日付	時間	内容	Zoom 会場
12 月 17 日 (金)	13:00～13:10	開会あいさつ	メインルーム
	13:10～13:40	ショートプレゼンテーション① (1 講演 2 分程度)	奇数番号 メインルーム ブレイクアウト ルーム
	13:45～14:45	ポスタープレゼンテーション①	
	15:00～15:30	ショートプレゼンテーション② (1 講演 2 分程度)	偶数番号 メインルーム ブレイクアウト ルーム
	15:35～16:45	ポスタープレゼンテーション②	
12 月 18 日 (土)	10:30～11:30	幹事会・総会	メインルーム
	13:00～16:00	シンポジウム・パネルディスカッション	メインルーム
	16:00～16:10	プレゼンテーション表彰・閉会式	メインルーム

4. ポスター発表の概要

- ポスター発表は、Zoom メイン会場にてショートプレゼンテーション（1 講演 2 分程度）を行い、その後ブレイクアウトルームに分かれて個別にディスカッションを行います。

- 発表は、奇数番号と偶数番号に分かれて、はじめに奇数番号の講演者がショートプレゼンテーションの後にポスタープレゼンテーションを行います。その後、偶数番号の講演者がショートプレゼンテーションの後にポスタープレゼンテーションを行います。
- ポスター聴講の際は、ご自身でブレイクアウトルーム内のポスター会場（PXX 氏名）を選択して参加ください。会場間の移動も自由に行えます。
- 質疑応答の際は、必要に応じて「所属」と「名前」を名乗ってから発言してください。音声による質問時は音声のミュートを解除するのを忘れずに行い、発言終了後は再度音声をミュートに切り換えてください。
- オンライン会場に上手く接続できない場合でも、講演要旨集が公開されているため、発表は成立したものとします。

5. ポスター賞

審査希望者には、日本生物環境工学会九州支部会の規定に沿ってポスター賞の審査が行われます。

6. Zoom システム入室の際の諸注意

- 発表および聴講する際は、ユーザー名を「氏名 所属」に設定してください。
- マイクやカメラのトラブル（音声が聞こえない、マイクが繋がらない、自分のカメラが機能しないなど）は、主催者側ではサポートできません。
- Zoomシステムの接続状況は、ご自身のネットワーク環境に依存します。無線LANが不安定な恐れがある場合は有線LANをお使いください。画面のフリーズや音声途切れなどのトラブルは、主催者側では対応できません。

7. 著作権について

- 発表者や主催者の許可がない限り、受信映像や発表資料の保存（画面キャプチャなど）、録音、再配布は原則禁止です。
- 研究発表会でのオンライン発表は、自動公衆送信による再送信とみなされます。著作物を使用する際には、著作権上問題のないようにご注意ください。

ポスター発表プログラム

- P 1. 教育現場で実施可能なホシダ (*Thelypteris acuminata*) の胞子の簡易培養法の検討
○小澤悠大¹, 山崎聖司²
(¹ 福岡教育大学大学院, ² 福岡教育大学教育学部)
- P 2. 珪鉄施用による冬期湛水水田からの窒素除去
○山崎 陽¹, 松添直隆²
(¹ 熊本県立大学大学院環境共生学研究科, ² 熊本県立大学環境共生学部)
- P 3. ヒエを対象とした球体ロボットによる水田内の雑草抑制効果
○広田理央¹, 加藤達也², 大塚弘文², 小田川裕之², 高山耕二³, 松添直隆¹
(¹ 熊本県立大学環境共生学部, ² 熊本高等専門学校, ³ 鹿児島大学農学部)
- P 4. 青枯病菌の表現型変異に及ぼす鉄化合物とクエン酸添加の影響
○佐藤玲菜¹, 中原浩貴², 森 太郎³, 近藤謙介⁴, 松添直隆¹
(¹ 熊本県立大学環境共生学部, ² 鳥取大学乾燥地研究センター, ³ 滋賀大学教育学部, ⁴ 鳥取大学農学部)
- P 5. 珪鉄とクエン酸添加が青枯病菌の増殖と表現型変異に与える影響
○森本祐未¹, 中原浩貴², 森 太郎³, 近藤謙介⁴, 松添直隆¹
(¹ 熊本県立大学環境共生学部, ² 鳥取大学乾燥地研究センター, ³ 滋賀大学教育学部, ⁴ 鳥取大学農学部)
- P 6. マルチインピーダンス法による植物工場栽培液の測定
○川路ゆう, 紙谷喜則
(鹿児島大学大学院)
- P 7. 減圧乾燥処理による食品残渣の減量と飼料化
○鍵本諭志¹, 馬場涼平², 紙谷喜則^{1,2}
(¹ 鹿児島大院農, ² 鹿児島大農)
- P 8. ホウレンソウ群落内における鉛直方向の光強度の減衰
—群落の成長に伴った減衰の挙動—
○次郎丸雪衣¹, 山口洋夢¹, 安武大輔^{2,3}, 広田知良²
(¹ 九大院生資環, ² 九大院農学研究院, ³ 高知大学IoP共創センター)

- P 9. 作物群落における400—1000 nm の透過光を用いたLAI の非破壊推定法
○山口洋夢¹, 安武大輔^{2,3}, 広田知良²
(¹ 九州大学生資環, ² 九州大学農学研究院, ³ 高知大学IoP 共創センター)
- P 10. 夏秋輪ギク栽培における異なる局所冷房が及ぼす群落内温度の時空間分布
○柳沢知世¹, 安武大輔^{2,3}, 広田知良²
(¹ 九州大学生資環, ² 九州大学農学研究院, ³ 高知大学 IoP共創センター)
- P 11. イチゴにおける果実温度を用いた果実肥大モデルの提案— 長期栽培への適用によるモデルパラメータの特性評価—
○照屋佳也¹, 安武大輔^{1,2}, 小野信太郎¹, 木村建介³, 井研吾⁴, 廣田知良¹
(¹ 九州大学, ² 高知大学, ³ 農環研, ⁴ 宮崎県)
- P 12. LED 植物工場でのレタス栽培における刈取収穫と掻取収穫に適した品種と栽培環境の検討
○岡崎慧¹, 霧村雅昭¹, 三上博幸²
(¹ 宮崎大学農学部, ² 宮崎大学産学・地域連携センター)
- P 13. 四季成り性イチゴ‘みやざきなつはるか’に適した温度管理の検討
○坂木海州¹, 田村萌², 野崎克弘³, 黒木尚⁴, 沖野圭志朗³, 霧村雅昭²
(¹ 宮崎大学大学院農学研究科, ² 宮崎大学農学部, ³ 宮崎県総合農業試験場, ⁴ 宮崎県児湯農林振興局)
- P 14. 豚舎排水のオゾン処理による水質改善と培養液利用の検討
○木下 智恵, 霧村雅昭
(宮崎大学農学部)
- P 15. 塩ストレスがトマトのテクスチャーに及ぼす影響の季節・品種間差
○東島麻衣¹, 圖師一文²
(¹ 宮崎大学大学院農学研究科, ² 宮崎大学農学部)
- P 16. 第1果房肥大盛期からの水ストレス付与がトマトの果実品質および光合成機能に及ぼす影響
○戸田圭駿¹, 圖師一文²
(¹ 宮崎大学大学院農学研究科, ² 宮崎大学農学部)

P 17. 加工・業務用ホウレンソウの花芽発達段階とルテイン含量の関係

○中村剛^{1,2}, 永吉嘉文², 圖師一文³

(¹ 宮崎大学大学院農学工学総合研究科, ² 宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場,

³ 宮崎大学農学部)

シンポジウムプログラム

テーマ：九州でのスマート農業研究の取り組み 2

ー農研機構と大学での取組事例ー

1. 中山間地域におけるスマート農業技術と農業支援サービスの提供
熊本県立大学 環境共生学部 環境共生学科
環境資源学 教授 松添 直隆 氏
2. 植物生産環境・生理生態情報の「見える化」と「使える化」を目指して
九州大学 農学部 生物資源環境学科
生物資源生産科学（農業気象学，生物環境調節学）
准教授 安武 大輔 氏
3. 生育シミュレーションモデルに基づくトマト収量予測に関する取り組み
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター
暖地畑作物野菜研究領域 久留米(筑後・久留米研究拠点)
研究員 守行 正悟 氏
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門
施設生産システム研究領域
施設野菜花き生育制御グループ長 安 東赫 氏
施設野菜花き生産管理システムグループ長 磯崎 真英 氏
4. 加工・業務用ハウレンソウの安定生産の実現に向けた収量予測モデルの開発
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター
暖地畑作物野菜研究領域 都城研究拠点
研究員 鎌田 えりか 氏